

米の検査等級が変わります

三段階に整理・簡素化

国内産米の検査等級区分は、昭和三十一年以後、一〜五等で行われてきました。

今回の改正によって、「等級区分」は現行一〜三等を合併して新第一等に、現行四等は新第二等に、現行五等は新第三等になります。なお、検査の規格は「等級区分」と同じように、新規格の三等は現在の五等、二等は四等と同じになります。一等については現在の三等と同じ規格になります。

この改正理由は

◎昭和四十四年の自主流通制度の

足立以降、品質の評価が等級を細分化するよりも銘柄に重きが置かれるようになったこと。

◎最近、稲作の機械化、省力化によって、一〜二等級米の出回率が減少したこと。

◎精米機の性能、とう精技術の向上などによって細分化が必要なくなったこと。

◎倉庫の収容力の増大、運送の効率化や売買業務の簡素化など米の流通の合理化、検査業務の効率化にも適合すること。

◎米の取引当事者が、等級を三区分に整理合理化することを希望し

(水稲うるち玄米)

(整粒歩合)		90%	80%	70%	60%	45%
現 行	1 等	2 等	3 等	4 等	5 等	
	等級別比率(46年~50年平均)		0.0%	4.6%	51.8%	38.4%
改 正	1 等		2 等		3 等	
	56.4%		38.4%		5.2%	



ていること。

——などの理由で改正されることになったものです。

この検査規格は五十二年産米から適用になります。

河川敷地を有効利用

児童公園を建設

大野(七区・八区)裏の中ノ口河川敷地を利用して、子どもたちの遊び場(児童公園)の建設がもうすぐ行われます。

すでに、この河川敷地を利用して、昨年、栄町、五区裏に一、八〇〇平方メートルの児童交通公園を建設、遊びながら自然に交通ルールを身につけられるよう、標識なども設置してあり、授業を終えたら、児童や生徒はさっそく自転車などで楽しく遊んでいます。また、最近では体力づくりブームの影響を受け、朝夕には散歩やマラソンをする人たちの健康保持にも一役買っています。

今年はそのすぐ隣の七区、八区裏を改修して児童公園を建設するものです。この両地域は新潟地震後、隆起や陥没により、常に水が溜み、雑草やアシが生え、カヤハエの発生源ともなり、早くから改修が望まれていたもの、これが完

黒埼高校体育祭へどうぞ!

新設4年目を迎えた黒埼高校。今年の体育祭は、地元の方々の皆さんに見ていただくよう、休日に行うことになりました。5チーム対抗の騎馬戦、綱引き、リレー競技、にぎやかな応援合戦など……若さとファイトが激突する黒埼高校体育祭に、観覧にお出かけ下さい。

6月18日(日)9時 黒埼高校グラウンド

町消防職員を募集

申込みは七月十日まで



昭和五十三年度、町消防職員を次のとおり募集します。

◎募集人員 若干名(男子)

◎資格 高等学校卒業以上、年令満二十歳未満、自動車運転免許(普通)以上の取得者、町在住者に限る。

◎提出書類

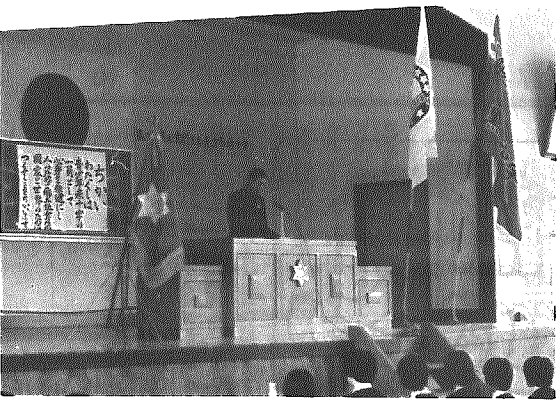
①申込書(総務課にあり) ②履歴書(写真添付) ③最終卒業証書④学校長推薦書⑤成績証明書⑥写真二枚(胸上脱帽、たて4cm、横3cm、裏面へ撮影年月日を記入) ⑦健康診断書(公立病院のもの)

◎申込期限 七月十日⑧までに、総務課へ提出。

◎試験日 七月二十日⑨の予定。(筆記試験、体力テスト)

※詳細は総務課へ、問い合わせ下さい。

J.R.C全国大会に 小林正明君(黒中3年)が参加



5月15日 登録式で、全国大会の報告をする小林君

青少年赤十字(ジュニア・レッド・クロス)の略語で青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和を人類の福祉に貢献できるような青少年自身が日常生活のなかで望ましい人格と精神を自ら形成することを目的としています。具体的な実践目標として次の三つをあげています。これは世界中の青少年赤十字の共通なものです。

一、生命と健康を大切にします。

二、人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。

三、広く世界の青少年を知り、なかよく助けあう精神を養う。

——国際理解・親善——

これらの目標に適した活動と学校や地域の実情によって計画して生徒会のJ.R.C委員会を中心として実践にむけておこなっています。

青少年赤十字(ジュニア・レッド・クロス)の略語で青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和を人類の福祉に貢献できるような青少年自身が日常生活のなかで望ましい人格と精神を自ら形成することを目的としています。具体的な実践目標として次の三つをあげています。これは世界中の青少年赤十字の共通なものです。

一、生命と健康を大切にします。

二、人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。

三、広く世界の青少年を知り、なかよく助けあう精神を養う。

——国際理解・親善——

これらの目標に適した活動と学校や地域の実情によって計画して生徒会のJ.R.C委員会を中心として実践にむけておこなっています。

奉仕・親善活動を活発に

黒中三年 小林正明

僕は五月六・七・八日の三日間、東京のオリムピック記念センターで行なわれた「青少年赤十字再建三十周年記念全国大会」に新潟県中学生男子の代表に選ばれ、参加してきました。全国から五百人ほどのぼる人が東京に集まり衣食住を共にして、J.R.Cとは何かを再確認し、各支部での活動の状況を報告し合い、J.R.Cの輪を広げるためにはどうしたらよいかを話し合いました。

この三日間のうちに僕はたくさんの友達をつくり、たくさんの知識を得てきました。

いっしょに東京へ行った、新潟県の高中生や中学生、小学生はもろろんのこと、いっしょにバスケットをして遊んだ青森県の人達とも同じグループになつて話し合ったり秋田県や鳥取県と行ってきました。

そして、救急法として三角巾の使い方や、おぼえてきました。

黒中では、今年からJ.R.C委員会が出来ました。これから、この大会での経験を生かして、また、J.R.C委員会と協力して、J.R.C活動をより良く、より活発にして行くため努力をしていきたいと思っています。